

## 平成30年度 第1回平塚市障がい者自立支援協議会 議事録

平成30年6月29日(金) 9:30~12:00

平塚市役所3階 304会議室

参加者：遠藤委員、前田委員、見留委員、谷田川委員、山寄委員、福元委員、富山委員  
鈴木委員、竹内委員、小村委員、宮崎委員、佐藤委員、橋本委員(民生委員)  
橋本委員(サンシティひらつか)、加藤委員、村田委員、二見委員

欠席者：吉田委員、森川委員

事務局 障がい福祉課：武井課長、杉崎担当長、佐藤担当長、加治屋主管、萩原主任

こども家庭課：久保主事

オブザーバー：湘南西部障害保健福祉圏域地域生活ナビゲーションセンター千葉氏

傍聴者 3名

【事務局】定刻になり、これより協議会を始める旨の宣言がある。

障がい福祉課長より交代があった委員へ委嘱状が交付される。

交代のあった委員は次のとおり。

渡辺委員→福元委員、津島委員→佐藤委員、岩井委員→橋本委員

新任委員より、簡単な自己紹介がある。

### 開会あいさつ 【武井障がい福祉課長】

要綱の規定により、会長が議長となる。会長からの挨拶があり、傍聴者の入場が許可される。

### 議 事

#### 1 相談支援事業報告(相談実績・相談傾向・昨年度の成果と課題など)

ソール平塚生活支援センター より報告 【加藤委員】

##### ① H29年度(H29.4~H30.3月末)の相談実績と傾向

- ・実績については、資料1のとおりとの報告があった。
- ・昨年度は個別で5,800件対応している。平塚市障がい福祉課から聞いて連絡してくる方が多い。業務内容としては、ヘルパーの利用や通所先の調整が多い。
- ・サービスを導入すると落ち着く方が多い。サービスを提供する時に、例えばヘルパーの利用を調整するなどをしたときに、サービスを利用できているから安心しており、将来どうしたいかということを考えられていないことがある。業務上感じることは、福祉サービスの職員が十分に配置されていないこと。短期入所の受け入れ人数を制限している状況があ

る。ヘルパーも不足している。その理由として、障がい者の普及啓発が足りていないのではないかと思う。

#### サンシティひらつか より報告 【橋本委員】

- ① H29年度（H29.4～H30.3月末）の相談実績と傾向
- ・実績については資料1のとおりとの報告があった。
  - ・昨年度も従前同様、知的障がいの一般相談を受け、サービスの導入や調整をしている。ただ、一般相談の中では、ひきこもりが多いと感じている。児童施設の加齢児の問題がある。犯罪を犯して収監された方の出所後の支援もしている。
  - ・高齢化の問題や65歳になったときの介護保険への移行の課題もある。普通級の高校での発達障がいがある方の、卒業後の支援にも課題を感じている。

#### ほっとステーション より報告 【村田委員】

- ① H29年度（H29.4～H30.3月末）の相談実績と傾向
- ・実績については資料1のとおりとの報告があった。
  - ・一般相談は、自立支援協議会や圏域ナビを利用しながら、調整している。身体障がいの方はサービスにつながる方が多い、精神障がいの方は中途障がいの方が多く、自分の障がいの受容ができていない方が多い。障がいの受容については、精神科病院や家族と協力している。その間はサービスが入らないので、計画ではなく、一般相談として対応している。
  - ・平成15年からひきこもりの方の相談で、精神科病院につながって、最近、就労継続支援B型に通所が決まった方もいる。時間をかけて対応している。精神科病院の地域移行について、地域定着の事業があまりないなかで、一般相談の中で対応していこうと思っている。

〈質疑・意見〉

特になし。

## 2 各部会、分科会の活動報告・今年度の計画等について

各部会・分科会の昨年度の実績や活動内容と今年度検討していることについて報告があった。

### ① 身障分科会 【加藤委員】

今年度の検討内容及び活動報告について加藤委員から報告があった。

- ・第1回 平成30年1月20日（土）今年度の活動と地域の課題について検討
- ・第2回 平成30年1月30日（火）平成29年度の振り返りと今後の活動の検討
- ・平成30年度については、昨年度同様の内容を検討しているが、普及啓発等の具体的な内容については未定。今まで、前田委員による講演や、民生委員への普及活動等を実施した。障がい者に対する普及啓発は身障分科会だけの話ではないので、企画運営部会等とも相談

し、方向性が決められればと思っている。

## ② 知的分科会 【橋本委員】

今年度の検討内容及び活動報告について橋本委員から報告があった。

- ・平成 29 年 12 月 6 日（水）モニター事業の評価と今後へ向けて、緊急時の受け入れ先について話し合った。
- ・知的分科会はここ数年、市内の障がい者の権利擁護や生活の向上に何ができるか検討している。オンブズマン制度について検討しているが、なかなか実現が難しい。その中で、市内の事業所の支援の向上を考えるようになった。事業所同士がお互いを知ることで、向上できるのではないかと話になっている。まずは、分科会に参加している事業所の中で実施した。今年度からは事業所を広げて、実施しようと思っている。市内の 60 の事業所に参加を呼び掛けた。そのうち、21 事業所から、参加するとの回答があった。これらモニター事業については、お互いの事業所の見学をし、知り、支援の向上を図る内容。7 月から、グループ分けし、実施しようと考えている。実施した後に、今後の展開を検討しようと思っている。

## ③ 精神分科会 【村田委員】

今年度の検討内容及び活動報告について村田委員から報告があった。

- ・精神分科会を月 1 回開催  
構成員は精神科病院ソーシャルワーカー 2 名、訪問看護師 1 名、地域活動支援センター職員 1 名、居宅介護事業所サービス提供責任者 1 名、家族会 1 名、障がいのある当事者 2 名（ピアサポーター）、湘南西部障害保健福祉圏域地域生活ナビゲーションセンター 2 名、平塚保健福祉事務所ケースワーカー 1 名、平塚市障がい福祉課 3 名、ほっとステーション平塚 2 名（計 16 名）
- ・富士見台病院の院内プログラム（Social Skill Training）参加  
平成 28 年 1 月から平成 29 年度の上半期まで、月 1 回程度、精神分科会の一部のメンバーと連絡会を通じて協力を仰いだ大磯町・二宮町の地域包括支援センターのスタッフとで、長期入院されている方との交流を図り、退院に向けた意欲の喚起を図った。平成 28 年度下半期から平成 29 年度上半期には、S S T 参加者が地域の社会資源を見学する機会を作った。
- ・研水会平塚病院見学会  
平成 29 年 6 月 6 日（火）見学。参加者数 20 名。内容としては、高齢福祉課・地域包括支援センター職員を対象に、見学会を実施。病棟の見学や入院中の方との交流、病棟看護師やソーシャルワーカーとの意見交換を通じて、精神科病院に長期入院している方、とりわけ高齢となった方の生活支援のニーズを考えるきっかけを作ることを目的とした。
- ・連絡会の実施  
平成 30 年 2 月 28 日（水）実施。参加者数 15 名。内容としては、精神科病院に入院して

いる高齢者の方の社会的入院の解消に向けた取り組みを考えるために、精神科病院ソーシャルワーカーから退院支援に関する講義及びグループワークを行った。

- ・精神保健福祉に関わる日中活動系機関と精神分科会との連絡会
  - 第1回 平成29年6月16日（金）参加者数18名。通所事業所で体調変化に気付いた時の対応や他機関との連携についての情報交換を行った。
  - 第2回 平成30年2月23日（金）参加者数11名。ピアサポーターから休日の過ごし方についての思いを聞き、日中活動系事業所として休日の過ごし方にどのような視座に立つべきかを考えるグループワークを行った。
- ・精神障がいのある方の御自宅や地域での生活支援を考える連絡会
  - 第1回 平成29年7月29日（土）参加者数14名。各参加者が持ち寄った事例を話のきっかけに、支援における悩みや困り事について話し合い、連携強化を図った。
  - 第2回 平成30年1月20日（土）参加者数24名。国立国際医療センター国府台病院の認定管理栄養士の方による「精神障がいのある方の食生活の支援について」の講義があった。
- ・今年度は、精神障がい者の地域包括ケアシステムについて、重点的に行おうと思っている。平塚市と保健所とでどのように取り組むか、協議の場を設けている。地域の支える力を向上し、長期入院の課題に対応していくよう考えている。

#### ④ こども部会 【こども家庭課 久保主事】

今年度の検討内容及び活動報告について久保主事から報告があった。

- ・昨年度は、児童発達支援（3回）と学齢時（2回）交換会を実施した。児童発達では、ガイドラインの研修等を開催。事業所の強化の進捗や共有をしている。学齢期は、各学校との連携を課題に実施した。
- ・今年度は、4月に報酬改定があったので、実務での影響の確認や情報交換をする予定。また、障がい福祉課と協力し、夏頃に研修開催も予定。事業所へのサービス変更内容等の説明をしていく予定。児童発達支援は7月に、学齢期は7月13日（金）に第1回目開催を予定。各事業所の近況、報酬改定の改定の影響等を検討。こども部会の在り方検討については、事業所が増え、課題が多くなってきたため、各事業所からの課題を収集して実施していく方が良いのではとの話があり、部会で検討していく。

#### ⑤ 就労支援部会 【山寄委員】

今年度の検討内容及び活動報告について山寄委員から報告があった。

- ・昨年度は企業向けに研修を実施した。また、発達障がい者の就労についての研修も実施した。発達障がいの特性の内容や、グループワークでお互いの関係機関の顔合わせを行い、結果、障がい者の法定雇用率が上がるという実績になった。商工会議所との連携で、商工だより案内を載せてもらったが、反応はあまりないよう見受けられる。今年度は雇用

促進セミナーと、企業交流会を県が各地で実施を予定しているが、平塚が対象になるものは12月に実施される予定。雇用が進んでいる企業に発表してもらい、情報共有やグループワークを実施予定である。来年1月には、支援者向けに研修を実施する予定。当事者と支援者、会社の方に事例の発表をしていただく予定。また、中小企業への障がい者雇用への促進が課題となっているため、平塚市内の地域での雇用率を伸ばしていければと思っている。

#### ⑥ 計画分科会 【宮崎委員】

今年度の検討内容及び活動報告について宮崎委員から報告があった。

- ・昨年度は、会議を6回開催。延べ174名が研修に参加。成年後見やリハビリ等、包括支援センターとの合同研修を実施した。
- ・今年度は会議を4回、研修を4回を予定している。目的や内容等については昨年同様の取り組みを予定している。6月26日（火）に第1回目の研修を実施し、報酬改定等についての内容だった。次回研修はグループスーパービジョンを実施する予定。

#### ⑦ 企画運営部会 【遠藤会長】

今年度の検討内容及び活動報告について遠藤会長から報告があった。

- ・今年度の部会については、本協議会の前に実施した。昨年度の課題について整理をし、話し合い継続していく予定。内容としては、1点目として医療的ケアの方の対応について、2点目として長期入院患者の退院支援について、3点目として福祉人材の確保についてどうするかを課題として位置付けてはいる。湘南西部圏域での課題となっているので、圏域ナビとも協力し、検討していきたいと考えている。
- ・また、当事者については、昨年度、災害をテーマに集まっていたき、自助・共助について、講義を受け、起震車の体験をしてもらった。その後、どの様に感じたか、グループで話し合った。当事者部会は組織化されていないが、企画運営部会で、当事者の参加については、検討していきたい。
- ・村田委員から精神分科会の回数や課題の変更を検討していると、話があったが、企画運営部会でも、分科会の見直しを考えなければいけないと考えている。課題に合わせた分科会を検討する必要もあると考えている。

〈質疑・意見〉

特になし

### 3 課題等について

今年度検討している課題等について説明があった。

#### ① 医療的ケア・長期入院・福祉人材について

ソーレ平塚生活支援センター 加藤委員より報告

- ・医療的ケアの現状や課題について説明。家族や看護師が日常的に行っている医療行為について医師が行うものと区別をしているが、吸引・導尿・経管栄養等は、家族と看護師しかできないので、日中通う先がなくなってしまった。看護師を事業所が採用することにより、通えるようになる。
- ・平塚では、相談支援事業所くりはらが生活介護で看護師を採用し、医療行為がある方は、受け入れてもらえ、入浴対応もしてもらっている。平塚市以外の方も、相談支援事業所くりはらに相談をしている現状があると聞いており、相談支援事業所くりはらの定員が満員となってしまった時に、どう対応していくか、検討が必要。
- ・短期入所の利用については、医療行為が必要だと、難しいのが現状。それを担うために、レスパイト入院をしている。最終的には、障がい施設に看護師がこないことが課題となっている。通所、入所の職員が足りていないことにつながると考える。人材不足の解消のためには、全体に普及啓発をする必要があると考える。

## ② 長期入院患者の退院支援について

ほっとステーション平塚 村田委員より報告

- ・長期入院患者の退院支援について説明。精神科に長期入院をする背景は、病気の重い方がいるが、薬の改良で退院できる方もいる。服薬ではなく、注射による対応で退院ができた、新しい薬で落ち着く方がいる。他の背景は、地域の受け皿がないこと。精神疾患を持っている人に対して怖いなどいった偏見がある。実際に、ヘルパーの事業所でも、身体障がい者を受け入れても精神障がい者は受け入れないという場所もある。ケアの担い手不足という問題もある。住まいの場についても、同じような理由で確保ができない。障がい者を抱える家族を支えるシステムが弱いという点もある。平塚では家族との同居が多いが、家族に対してのケアが少なく、再入院につながってしまうことがある。様々な要因が複合的に絡むので、しっかりした地域包括ケアシステムがあるといいと思う。
- ・精神科病院としては、長期入院の方の多くが、退院の意欲が下がる方がいる。精神科病院での生活になれ、地域に戻れなくなってしまう方もいる。富士見台病院で実施しているプログラムで外出をしても、精神科病院に戻るとあれこれ考えなくてもいいから楽との発言もあり、自力で生活していくには不安がある様子だった。退院への意欲をわき起こすことも必要と考える。
- ・今後の取り組みとしては、地域包括ケアシステムをどのように構築していくかに期待をしている。居住の場については、不動産業者やケア住宅が精神障がい者の入居について理解をして協力してもらえれば、解決につながる。また、地域での居場所がないと自宅に引きこもってしまうので、サロンや町内福祉村とタイアップしていけるといいと考える。包括的に支えるシステムに精神障がい者も含められるようにして行ければとも思い、平塚市では地域包括ケア推進課があるので、保健所と協力し、進めていきたいと思う。障がい者

個人への働きかけについては、病状が安定していて、退院が可能な判断を精神科病院だけでなく、地域も含め、事例検討をしようという話があり、地域移行支援等につなげていきたいと思っている。長期入院の方については高齢者の方も多く、今後の入院期間で高齢化するので、高齢福祉分野での協力も必要で、密接な連携が必要と考える。

湘南西部障害保健福祉圏域地域生活ナビゲーションセンター 千葉氏より追加説明

- ・医療的ケアについては圏域の課題になっている。神奈川県課題整理票にもトップの課題になっている。圏域の活動としては、通所事業所やレスパイト先の数的問題があり、看護師の確保の課題もある。医師からの指示書の問題や、看護師の採用の問題もある。養護学校での話によると、医療的ケアの必要な児童が増えているとのことがあり、今後、事業所が足りなくなると危惧されており、事業所の増加が必要と言われている。レスパイトについては、事業所の数を増やそうと検討している。今年度は神奈川県が予算化して働きかけをしている。
- ・精神障がい者の長期入院の課題については、平塚では分科会で整理されてきてはいるが、神奈川県としては保健所単位で考えていくようになっている。平塚市と秦野市に保健福祉事務所があるので、7月25日（水）に開催する圏域での協議会で、今後の方向性を考えていく。

〈質疑・意見〉

**前田委員**

- ・精神障がいの方の長期入院の問題は地域で考えなければいけないことであり、様々な事件が多いので、精神障がい者に対するイメージが悪くなっている。本協議会に自治会の代表の方に参加してもらってはどうかと思う。
- ・家族会の方は参加しているが当事者の参加がなく、色々なことを考えていくと普及啓発だと思ふ。看護師が足りないというが、全体的に考えればいるのではないかと思ふ。病院などを退職され在宅にいる看護師に再度復職してもらうことも大事だと思ふ。いつ結論が出て、どうやっていくかがこの会議では見えてこない。小さな事でも良いので何か動いてみたらどうかと思ふ。

**遠藤会長**

- ・数年前までは本協議会の委員に民生委員すら入っておらず、各専門分野からの専門家のみで委員を構成していたので、協議の上、民生委員に入ってもらった。今後、どのような方を委員にするかについては検討する必要がある。

**村田委員**

- ・企画運営部会でも話が出たが、人材育成や普及啓発の部会をつくってはどうかと考えてい

る。現状は障がい種別で分けてそれぞれ活動している。精神分科会では、精神障がい者への対応ができる事業所が増えた。しかし、高齢者への支援機関との交流では、入院させたにも関わらず、どうして退院させてしまうのかとの意見もあるが、現在は退院支援に変わっている。障がいに関わらず、話し合いをする部会が必要だと考える。また、精神障がい者の訪問看護が増えている。その理由は、報酬について看護師に対してもきちんと対応できているためかと思う。

### 遠藤会長

- ・実際に、就労の分科会はあるが、人材・普及という視点での啓発活動はしていないので、必要だと思う。どのような内容かを知ってもらい、実際に関わってもらう必要があるかといったことを今後検討した方が良いのではと思う。

### 湘南西部障害保健福祉圏域地域生活ナビゲーションセンター 千葉氏

- ・通所の事業所で看護師が来ない理由で見えてきたのは、看護師 1 人で担っていることや、支援員や家族からぎりぎりの判断を迫られてしまっていることへの負担感が大きいのではないかと思う。制度的なバックアップが薄く、医師からの指示書がないとできない行為や、指示書の作成に費用がかかることに家族がためらってしまっていることや、主治医の病院等が遠方で、指示書をもらえないことがある。
- ・看護学校を卒業した 20 歳代の看護師は、規模の大きな病院に勤務し大所帯で仕事をする人が多いが、事業所に就職すると看護業務以外の事も 1 人で何でもこなさなければならなくなり、そういった点を看護師も承知しているので、事業所に就職する看護師は中々少ないのが現状。指示書を保険適用にしたり、訪問看護の人とセットで就職してもらおうといった案等も考えていきたい。

### 前田委員

- ・厚生労働省や神奈川県に事業所等が働きかけをして、制度を変えていくことが必要だと思うことは分かっているが、私たちがそういう動きをすればいいのかどうかも考えている。

### 千葉氏

- ・医療型の短期入所を増やす動きになったのは、神奈川県に意見が届いて実際に検討した結果だと考えている。各市の協議会で意見をまとめ、神奈川県に提案していく必要はあると思う。今回の診療報酬改定や診療情報提供料についても、障がい福祉の分野に拡大した様子。圏域ナビとしてもこれから調べていく予定で、各地域での様々な課題を発信していくことにより、より良い方向に変更される部分もあると思うので、意見をまとめ、神奈川県等に提案していこうと思っている。



### 遠藤会長

- ・意見をまとめて、圏域ナビ等に報告し、神奈川県に提案していくことが必要だと感じている。相談支援事業所くりはらについては、現在保健師が2名いて、利用者も含めて様々なアドバイスができる環境にあるので、看護師が孤立しない体制になっているのではないかと思っている。栗原ホームという建物の中に様々な事業所が所在していて、看護職がいると様々な相談等の対応ができるのが良いと思っている。看護師を増やそうと考え賃金を調べてはいるが、実際に雇用しても予定どおりの高賃金を支払うことは中々できないのが実情。介護職には処遇改善加算が付いていて報酬として計上はできるが、看護師には対応していないので、制度上難しい。募集広告をかけても看護師の実際の応募がないのが現状であり、今後どのようにしていけば良いか検討の必要がある。

### 前田委員

- ・自分の身体障がいは軽度だが、ガイドヘルパーの人手が足りないと感じている。障がいの程度を重度・軽度で考えれば、重度の人を優先する必要があると思うが、軽度の人に対してのガイドヘルパーの問題も考えてほしい。
- ・東京都大田区で、大田ユニバーサルマラソンというものが実施されていて、健常者と障がい者が参加し、タイムトライアルで競技するという内容。車いすや視覚障がい者向けの装具等で障がい者体験をしてマラソンすることにより、身体障がいがどのようなものかという普及ができると思う。大田区のような大規模な事業は実施できないが、小さくても何かしら実施してみてもどうか。企画をしてくれる方の募集でも良いのではないかと思う。

### 遠藤会長

- ・福祉人材の不足については、今後話し合う場について検討をしていきたいと思っている。検討した結果などについては、この場で報告をさせてもらいたいと思う。委員の皆さんにも分科会に参加し、意見をしていただけるといいかと思う。また、各委員に、各分科会の日程などをお知らせし、参加してもらえるようにしてはどうかとも思う。

## 4 平塚市障がい福祉計画（第5期）について

平塚市障がい福祉課 より説明 【平塚市障がい福祉課・杉崎担当長】

- ・平塚市障がい福祉計画の第5期については、皆様に御協力いただき、無事に策定することができた。計画については平成30年度からの3年間のものとなっている。障がい福祉サービスに関する計画で成果目標を5つ設けている。今後、達成に向け、本協議会でも意見をもらい、検討していきたいと思っている。その際は、御協力いただきたい。障がい者福祉計画の策定についても、今後検討していくので、その際にも御意見いただき、御協力いただきたいと思っている。

## 5 その他

### 谷田川委員

- ・精神障がい者の当事者が本協議会に参加すると良いと思う。家族の立場から発言すると、最近色々と精神障がい者に関連する事件が報道されていて、大阪では、亡くなったケースもある。また、身体拘束についても「身体拘束しないと命を守れない」と判断した場合のみ行うことができるとなっているが、一度身体拘束をすると、医師や看護師の看護がない状態で病室に一人にされ、さながら拷問の様になってしまっている。そのような現状を知ってもらいたいし、なぜ、そのような状況になっているのかを考えてほしい。ニュージーランドでは拘束され、亡くなってしまったという報告がある。この2年間で、拘束が増えているのが現状。認知症の人の入院が増えて、拘束しなければ看護できない状況なのかと。ある医師が「精神科医に拳銃を持たせろ」という内容の文章を公表したが、家族等からは理解できずとても恐ろしいと感じている。
- ・差別解消法が施行されてはいるが、法律の名前さえ知らないという人が77%いるという統計もある。一般市民に知らせていくのが行政や地域の役割だと思う。平塚市で関係機関の方々とそういった内容を話し合えるのは、この本協議会でしかないのでは、話し合うだけでなく、ある程度の方向性を持たせないといけないのではないかと思う。今まで、精神障がい者は家族が面倒を見なければいけないとなっていた。大阪の事件は、保健所に相談行ったと報道があったが、適切に対応できていれば亡くなることはなかったと思う。地域の人も、変な声がするなどで、保健所に通報するなどの動きができるよう、啓発する必要があると思う。家族会としては、家族会への加入や、家族会で話ができる場を提供している。もっとオープンにしてもいいのだと思っている。今は、治療が良くなり、社会復帰できる人が多くいる。もっと知ってもらいたい。当事者の声を聞いてもらいたい。

### 見留委員

- ・地域で最後まで見ていくといった、地域包括ケアというものがあるが、全然できていない。まず、短期入所の部屋が取れない。親がいなくなった時どうすればいいか。グループホームの実態を育成会で調査。実際に入居していても医療ケアが必要になると退所となる。そうなった時に、親がどうするのか。事業所側にそうなった時にどうすればいいのかの発想がない。長期入院の社会的入院の話があったが、うちは逆となっている。親が支援できなくなった時に面倒を見られず、入所先がやっと見つかったが、結局手に負えなくなり、精神科病院に入院となった。環境変化で入院となった。色々聞いて、自分の子どもの事を考えると、自分が死ぬと環境が変わり、精神病院に入院になるかと考えてしまう。
- ・色々活動して発言をしているが歯がゆい。自分の子のために頑張っているが、親亡き後に2,000万円がないと生活できないと考える。事業所の人頑張っているが、当事者の声を出さないと、分かってもらえない。親は長生きしなければいけないと思っている。高齢の親と障がいを持つ子を支えられる事業所が地域にできてほしいと思っている。

- ・個々に配っている手当等は地域のために、例えば看護師の採用のために、使って欲しい。手当が無くなると文句言う人がでると思うが、みんなが全体を考えてもらいたいと思う。
- ・グループホームに入所していても、地域に参加しておらず、結局地域の人に認知されないという現状がある。就労できても安心ではなく、家族の支援が必要になる。親御さんが死んだ後のことを考えてもらいたい。相談や学校の先生も、親亡き後の事を考えるべきだ。事業所を決めるだけではないことを分かって欲しい。

#### **遠藤会長**

- ・全体だと、本協議会になるが、分科会でも意見をいただきたいと思います。

#### **湘南西部障害保健福祉圏域地域生活ナビゲーションセンター 千葉氏**

- ・自立支援協議会とネットワーク、重度心身障がい者については当センターの活動報告書にまとめてある。ナビだよりは奇数月の月末に発行していて、今年度の活動予定の記載もしてある。伊勢原市との事例検討会の記載もしてあり、メールでの配信もできるので、御要望があれば声をかけてください。

他に、質疑・議事がないことから、会長が議長の任を解かれる。

事務局から、次回の自立支援協議会の日程について、11月中旬～下旬に開催予定との報告がある。

#### **閉 会**

事務局より閉会の言葉があり、終了となる。

以 上